

# シャーアル

石巻祈りの家NEWS LETTER 「シャーアル」(139号)  
986-0801 宮城県石巻市水明北3丁目13番28号  
TEL /0225-96-1497 Email/hjm-ja2@yg8.so-net.ne.jp

振替口座 02290-6-126186 口座名称 阿部 一  
●代表/阿部 一 ●副代表/菊池せい子

## 信仰: こころの覆いを取り除け

- 近年、日本では大きな災害被害が連続しています。これからも日本中を震撼させる大地震発生が予測されています。また、地球温暖化が原因ではないかと言われる大型の台風が続けて襲来し、大きな被害も起こっています。
- 今回の千葉県内の台風15号による3.11の震災に匹敵するような大きな被害を受けた被災者のみなさんに、適切な支援といつもの生活に早く戻れるように祈られます。
- 「便利さはいのちと引き換え」というのが私の化学教師としての指導の口癖でした。これらの連続している震災は神から管理を委ねられた私たちの自然への影響を考えないで便利さと経済発展だけを求めてきた人間の歩みに、立ち止まって何が本当に大切なかを問うているように思います。
- 世界的にも混迷の中で、私たちクリスチヤンは何をすべきなのでしょうか？ 聖書の中でも神に選ばれた民の中で幾度となくその存続さえも危ぶまれる混迷の中で、神は憐れみを持ってその度に預言者を送り、神の道に立ち返る機会を与え続けてきました。
- モーセは、神の御心を聞くために、神の臨在するシナイ山や会見の幕屋で神の前に立ちました。そこから帰った時のモーセの顔はシャカイナグローリーを反映して輝き、民は彼を見ることができなかったために、モーセは顔に覆いをしていましたと聖書に書いてあります。
- しかし、それは消え行くものを隠すためでもありました。さらに、モーセが神の御心を語った時も、民の心には覆いがかけられ、神の御旨を反映できない状態でした。
- しかし、現在、私たちは「人が主に向くなら、そのおおいは取り除かれるのです」、「主は御靈です。そして、主の御靈のあるところには自由があります。私たちはみな、顔のおおいを取りのけられて、鏡のように主の栄光を反映させながら、栄光から栄光へと、主と同じかたちに姿を変えられて行きます。これはまさに、御靈なる主の働きによるのです。」という神の子とされた祝福の約束の時代に生きているのです。
- 私たちは、イエス・キリストの十字架の贖いの故に、神殿の幕屋が切り裂かれ、御靈の助けによって、直接神と交わりをができ、御心を教えていただける特権を持っています。
- その時に、私たちが自分勝手な思いや願いという自己中心の心の覆いを取り除いて主の前にぬかづく必要があります。
- そして、日常生活の自分の召された地に立って、神の御心に沿い、自由な信仰を持って、キリストに似た者とされることを願って歩む時に、世の光として用いていただけます。
- 実りの秋、神の本当の愛の意味が、一人でも私たちの隣人に届いて受け入れられるように、心の覆いをとつて、神の御こころを証しできるように祈りながら、この与えられた新しい日の一步を踏み出します。

### ■ 先月の多くの恵みから

- ① 9月は、多くの方々の訪問をいただいたり、日頃、ご無沙汰していた先生や今までお世話になって来ている兄姉や友人、また、病いや戦いにある方を訪ねることができ、主にある交わりができ感謝な月でした。
- ② 9/15の礼拝は、北方勝也師にメッセージの奉仕をして頂きました。午後には、FG-session-2018(北方奈津子さんのフルートと池田宏里さんの8弦ギター)にホームコンサートをしていただき、近所の方や教会に集っておられる方と、クラシックの生の演奏を楽しませて頂きました。

● <祈りの要請> この地から、真剣に求道する民が起これるように。私達の生き方を通して福音を証しできるように！



人が主に向くなら、そのおおいは取り除かれるのです。

II コリント3/16

③ 介護施設に入所している友人のお兄さんを毎週水曜日の午後訪問し、先ず「主我を愛す」を賛美し、若い時の思い出をお聞きし、聖書の短いお話、そして大好きなプレスリーの歌を聴き（感謝なことに、たまたま立ち寄ったコンビニでプレスリーの80曲歌のCDが手に入り感謝！）、ご家族や妹と弟さん家族のために祈る恵まれた交わりをさせて頂いています。帰りは「また会う日まで神の守り」を賛美します。

④ 9/11に、博多ニューライフ教会の元 菊枝姉よりメールが入り、今年も12/11-14の日程でクリスマスツリーのワークショップを開いてくださいました。感謝。

⑤ 9/21に、石巻専修大学でユーローディアと小坂 忠さんのジョイントコンサートが開かれ、多くの市民が素晴らしい演奏を楽しまれました。準備のお手伝いをさせて頂きました。

⑥ 9/22の礼拝後から9/24まで、米沢興譲館高校の同級会34会に、ニューヨークの江部君から是非出席をとの要請で参加してきました。高校卒業60年目で、それぞれが社会で有用なお働きをされて来ているのに感動しました。

⑦ 9/2に、東京の菅原宏子姉が友人の木原姉と訪問下さいました。その時の証しを今月号に書いていただきました。

⑧ 9月も、みなさんからの献品、献金、祈りのこもった電話、メール手紙で励まされて主の働きができました。感謝！

### ■ 今月も以下の課題を祈って頂けるようにお願いします

① 今野かつ子さん/新井勝太・李恵子夫妻/鈴木手以師/Deiさんの治療のために ② 石巻各教会の働きと地域より求道者が起これるよう ③ 大平英秀さん/佐藤 隆さんのために ④ 来秋予定の渡辺総一絵画展の実現のために ⑤ 来年度の3.11追悼記念会と石巻クリスマス会の準備と必要経費が満たされるように

### 群の定期集会

・礼拝 (毎週日曜日)	10:00-11:30
・祈り会 (毎週水曜日)	10:00-11:30
・聖書を読む会(第1火曜日)	10:30-12:00
・ほっと・Time (第3火曜日)	10:30-12:00
・コーラス「花」 (第2,4木曜日)	13:30-15:00
・楽しい手芸 (第2,4月曜日)	10:00-12:00
・学習支援 (地域の子どもの要望に応えて)	

### 信仰を詠う

#### 10月 銀色の髪 (2)

セットした髪に手をやり然り気なく  
ふれて無骨な夫の優しさ

五十年互いに寄せる思いやり

阿吽の域はまだまだなれど

銀色の髪を愛でつつあと一年

金婚式をときめきて待つ



今野かつ子

「しらがは光栄の冠、年寄りの飾りはその白髪」、  
「私はあなたが白髪になつても私は背負う」と  
聖書は約束しています。  
今、その時を迎え、夫の優しさと神に感謝です。

# 2019/8月末～2019/9月末までの教会活動の情報と地区教会活動との関わり



8/31 時田師と兄姉が訪問され楽しい交わり

9/2 菅原宏子姉と木原姉が訪問



9/10 南三陸の「たみ子の店」を訪問



9/24 米澤興説館高同窓会 34会(79才)



9/21 石巻事修大学での「ユーチューバー &amp; 小坂 忠コンサート」の打ち合わせ

8/26 Dean師がチラシを持参

9/21当日の「ユーチューバー &amp; 小坂 忠コンサート」の様子



9/17 ほっと・Timeで「皇帝」の曲解説

9/15 北方勝也師が礼拝で説教奉仕

9/15 FG-session-2018コンサート

9/5 宮城教会での3.11追悼記念会準備委員会

## アドナイ・イルエ

「アドナイ・イルエ」=主の山に備え在りの

### 信仰の友より

#### 「祈りの家」を訪ねて

東村山福音自由教会（サンライズチャペル）菅原宏子

今回は、大きな病と思いもかけない大きな事故に見舞われ九死に一生の経験をされ、そのことを通して、神の救いに導かれた御主人と3年前に住み慣れた仙台を離れ、東京の娘さん家族の住む東京の地に移られた姉妹が、信仰の友人とと共に私たちの教会を訪問下さった時のことを書いていただきました。現在、姉妹は右半身麻痺で車椅子生活の御主人を介護しながら、息子さんと同居し、近所に住む娘さんの子ども達のお世話と毎日が戦いの日々ながら、神への信仰の恵みに堅く立って祈り、励まし合って忠実な信仰生活を歩まれています。是非、祈りによる支えをお願いします。

仙台在住時に是非訪問したいと思っていた「祈りの家」ですが、実現せずに3年前に東村山市に移住してしまいました。

この地に来てからも毎月「シャーアル」を送っていただき、阿部さんを代表とする群れの働きが目に見えるように迫ってきます。自らが東日本大震災の被災者でありながら、被災者を支援する奉仕活動が国内外に知れ渡りました。数多くの方が頻繁に訪れるため、今なお、多くの方が訪問され、深い交わりをなさっています。

そんな中、9月2日に母教会（仙台グレースチャペル）の木原姉と一緒に訪問する機会が与えられました。お忙しい日々の中で、わたくしたちを温かく迎えていただきました。

ちなみに、秀子姉とわたくしは高校時代の同級生です。大学と通った教団、教会は違います

が、同じ頃信仰に導かれました。昭和35年（東京オリンピック開催）に、秀子姉は母校（高校）に音楽教師として、わたくしは郷里近くの小学校に赴任しました。当時二人で交わった頃の思い出が蘇ります。秀子姉が結婚され、御主人（一兄）が高校の教師として勤務されている酒田市に移られてからは、一時期連絡が途絶えました。しかし、8年後にご主人の勤務校が山形県から宮城県に替わったことを知りました。それから何年後でしょうか。秀子姉との再会です。不思議な神様の導きでした。住まいを石巻に据えられてからは、5人の親御さん（養父母と秀子姉の両親、一さんの実母）の長期に及ぶ介護をしながら、ピアノを教えておられました。そんな中でも、「親たちから教えられることが沢山あるよ」と言われていました。時期は遅れましたが、わたくしも立て続けに4人の親の介護に追われる日々となりました。秀子姉は介護の先輩としてのアドバイスや励まして、気

の滅入りそうなわたしの力強い味方になってくれました。お互いに人生で最も多忙な時期でした。

時を経て、いろんな困難を抱えながら「祈りの家」が開設されたことを知りました。そして東日本大震災です。その支援活動を通して、今も信者、未信者を問わず絶えず多くの方が「祈りの家」を訪れています。その理由が分かりました。誰でも、また来たくなるようなアット・ホームなのです。「家の教会」なので敷居が高くなく、堅苦しさもありません。集会室には会員手作りの素敵な手芸品がいっぱい。眼が潤されます。テーブルにはクリスマスを思わせるご馳走が沢山並べられています。わずか2人の訪問者のために。早速ご馳走をいただきながら、5人での改まった証しがではなく、お喋り感覚での楽しい交わりが始まりました。

次から次と間断なく続く「ハレルヤ！会」になり、恵みを分かち合いました。試練の真最中にあっても、喜びがあり希望があります。神様はなんと良いお方でしょう。尽きない神の栄光を褒め称えました。時間は刻々過ぎているのに居心地のよさにたっぷり浸かっていました。住む地は

違つても神の家族の重みを肌で感じました。「ふたりでも三人でも、わたしの名において集まる所には、わたしもその中にいるからです」（マタイ18/20）のみことばを実感しました。

「祈りの家」は、どんな人でも受け入れ、助けを求める人が自由に出入りする「駆け込み寺」的役割を果たしています。一人の魂が大事にされる場所。悩みを気軽に打ち明けられる場所。居心地がよくいつまでもいたい場所。そして心のこもったご馳走は心と体を温め、交わりを円滑にしてくれます。

教会は、決して建物や会員数、組織、教勢ではなく「愛を体现する場所」として主が選んで下さった群れ。それが「祈りの家」です。こんなに愛され、祈られている群れは他にあるでしょうか。「シャーアル」を手にすると一目瞭然。神はこの小さい群の礼拝に、現在3名の求道者を導いて下さっています。

8年前の涙も枯れるような東日本大震災の爪痕がまだ残る石巻の地。わたくしたちの思いをはるかに越えた神様の大きな計画があるような気がしてなりません。「地域伝道を目指に掲げている祈りの家」。「あなたの信仰通りになります」と実を結ぶ日の来る事を期待しながら、東村山の地からお祈りしています。

栄光を主に帰して

